

## **Falco peregrinus Falco-p. (1) ハヤブサの生態**

### **BIRD Homeopathic Remedies from Avian Realm より**

**分布：**南極大陸をのぞく全世界で生息しています。寒冷地に住んでいるものは、冬を越すために温帯や熱帯地方に移動します。**Peregrinus** というのは、放浪するという意味。日本に生息するハヤブサは、山沿い、川、谷、海岸沿線に住み、年中日本にいます。食物連鎖の頂点にいる猛禽なので、開発や農薬汚染にさらされて個体数は激減してきています。最近では、都市部でも住むようになり増えすぎた鳩を餌にしているようです。

**体型：**身体は、カラスと同じくらいでメスの方が大きい。体長は、オスが 38cm～45cm。メスは 46cm～51cm。翼幅は、84cm～124cm。

ワシ・タカより均整のとれた長く狭い翼を持っており、空中では彼らより速く強いが、地面での機動性は劣ります。

**繁殖：**求愛期間は、2 月初旬に始まり、4 月に、巣は作らず、断崖の岩棚にできた窪みや、木の洞、地面に 2~4 個の卵を産みます。

メスは 28～33 日かけて孵し、雛の成長には 6 週間かかります。

**捕食：**スズメ・ムクドリ・ハトなど 1.8 kg 以下の鳥を主に食べています。

抜群の視力と世界最速のスピード飛行能力を持っています。

隼は、「速く飛ぶ」というところからついた名前。

特に急降下が得意。獲物の上に昇り、それから急降下します。この急降下時のスピードは、160km～300km。このようなことが可能なのは、鼻腔の特殊な構造によります。急降下するとき、鼻道を通る空気の流れを緩やかにする空気調節装置のような働きをする骨のような結節を鼻腔に持っているからです。

ジェットエンジンの製作において、エンジニアたちがある一定以上の速度になったとき空気の抵抗をどのようにするかという問題に頭を抱えていたとき、ハヤブサが途方もないスピードで滑降するとき、どうしているのかということからのヒントを得たそうです。

**Falco** はラテン語で、鎌という意味を持ちます。くちばしが鋭く、首の後ろをひと噛みして即死させることができます。鋭いくちばしで獲物に触れると、死神のように突然の死をもたらすことができるのです。ですから、獲物と格闘する必要がありません。

身体と不釣り合いなほど大きな足も特徴的ですが、飛びながら獲物をつかみ、地面にたたきつけて殺すこともします。

**分類：**2008 年に、DNA 研究でインコ、オウム、スズメに近い種類だと分かりました。